

探究・校務改革 支援補助金 2025

令和6年度補正予算
地域未来人材育成支援民間サービス等利活用促進事業費補助金



探究的な学びの高度化/教職員の校務負担軽減を目指して

効果報告レポート

【事業者名】

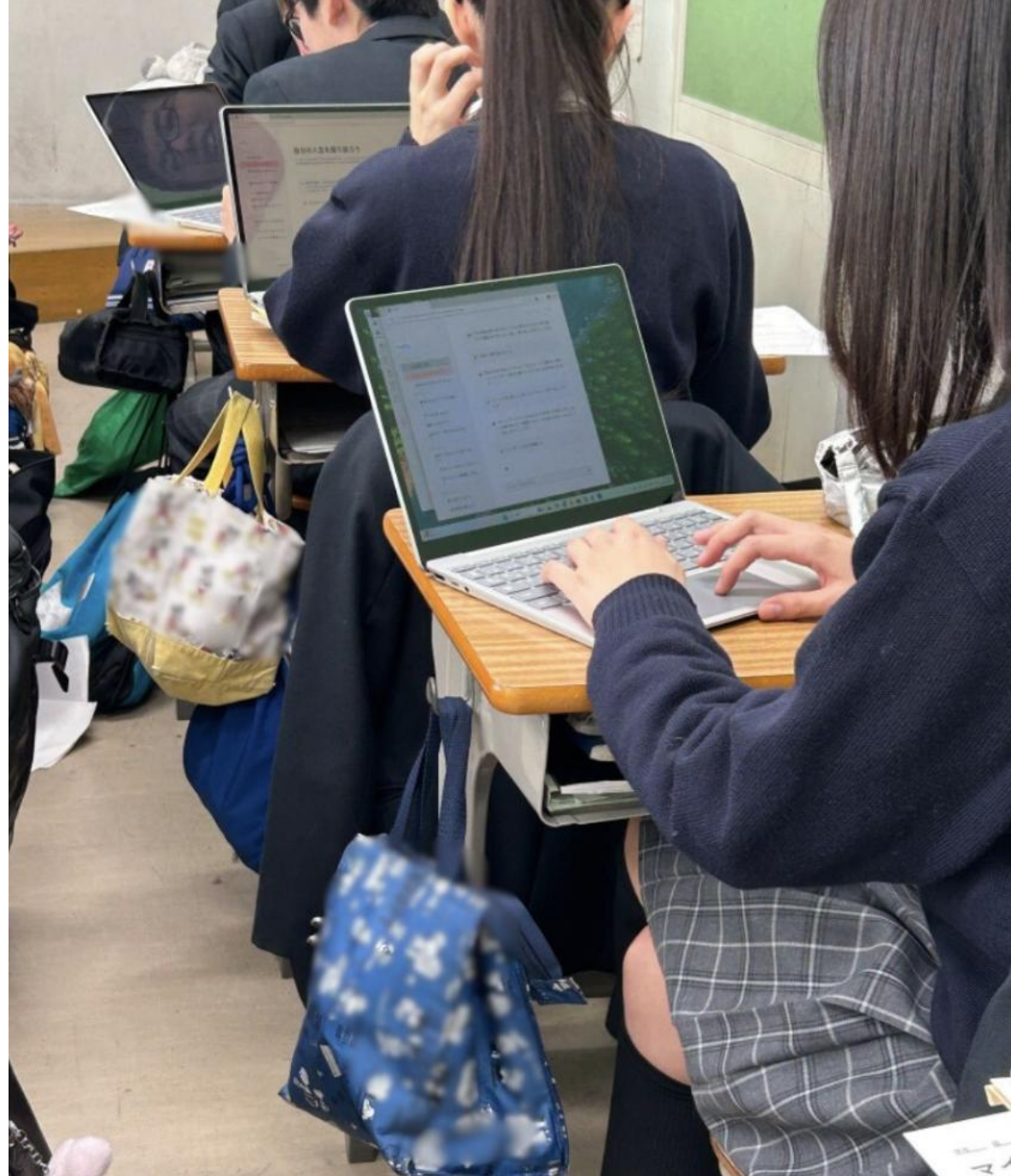
一般社団法人マイパレ

【サービス名称】

個別最適な探究の学びを生成AIとサポートする
探究伴走支援プログラム「タンキュウラボ」

【サービスの支援項目】

カテゴリ-1 探究的な学びの高度化 メインサービス



1. サービスの概要、特徴

本サービスは、生成AIによる対話型教材と、探究経験を有する大学生メンターによる伴走支援を組み合わせた、探究学習・校務改革支援サービスである。

生徒は生成AIとの対話を通じて、探究テーマの設定、思考整理、調べ学習、アクションプラン立案までを自律的に進めることができ、教員はそのプロセスを可視化された形で把握・支援することが可能となる。

(1) 導入によるメリット、類似サービスとの違い等

→ 探究学習の支援が個別最適なサポート実施が可能になること。AIとの対話に加えて、メンター派遣も実施することで、探究学習の個別具体的な困りごとを解消できるというメリットがある。

(2) 学習に関連する効果又は業務効率化・利便性等に関連する効果

→ 教員陣の個別面談の時間の削減などができ、業務効率化に繋がっている。

(3) サービスの活用場面

→ 中学では総合的な学習の時間での活用、高校では総合的な探究の時間での活用をメインとしている。

その他授業時間外でもサービスの使用はできる状態になっている。

(4) 1サービスあたりの標準販売価格

→ 標準販売価格: ライトプラン: 9,800円(税別/1人あたり)

2. サポート内容（サービスの利用に際しての自社のサポート体制等）

探究伴走型総合支援プログラム「タンキウラボ」

タンキウラボは、生成AI教材と大学生メンターによる伴走支援を組み合わせ、生徒一人ひとりの関心や価値観に基づく探究学習を実現するとともに、教員の探究指導・校務負担の軽減を図る探究・校務改革支援サービスである。

対話型生成AI教材「マイパレ for school」と、探究プロセスを可視化・蓄積できる紙教材「タンキウノート」を活用し、課題設定から調査・整理・発表・振り返りまで、探究学習の全工程を体系的に支援する。

自社によるサポート体制

導入にあたっては、管理職・担当教員への事前ヒアリングを実施し、学校の実情に応じた授業設計・運用計画を策定する。導入時には教材の使い方や生成AI活用に関する説明を行い、授業開始後は大学生メンターを派遣して生徒の探究活動を伴走支援する。

プログラム終了後には、アンケート結果や現場でのフィードバックをもとに振り返りミーティングを実施し、教員の負担軽減や授業改善につながる運用レポートを提供することで、持続可能な探究学習の実装を支援する。

総合的な探究の時間の必修化により、学校現場では探究学習の重要性が高まっている一方、生徒の主体性を引き出す指導や、個別最適な伴走支援を行うための教職員の負担が大きな課題となっている。本導入実証では、生成AIと伴走支援を組み合わせた探究支援サービスを導入することで、生徒の「自分ごと化された探究」を促進すると同時に、教職員の探究指導・校務負担の軽減を図ることを目的とした。

児童生徒・教職員が抱える課題

児童生徒の課題

- 探究テーマを自分の関心や経験と結びつけて設定できず、探究が形式的になりやすい
- 何をどの順序で進めればよいか分からず、思考が停滞する
- 探究の過程が整理・蓄積されず、学びの振り返りや成長実感につながりにくい

教職員の課題

- 生徒一人ひとりの探究に個別に伴走する時間が確保できない
- 探究の授業設計・評価・指導方法が属人化しやすい
- 生成AIを教育的にどう活用すべきか判断が難しく、活用が進みにくい

サービスが果たす役割

- 本サービスは、対話型生成AI教材と大学生メンターによる伴走支援を通じて、生徒の思考整理や問いの深掘りを支援し、「自分で考え、進める探究」を実現する役割を果たす。
- 生成AIが生徒ごとの思考プロセスに応じた問いかけや整理を行うことで、教職員が常時個別対応をしなくても探究が前進する環境を構築する。
- また、探究の全工程を可視化・蓄積することで、教職員の指導・評価の負担を軽減し、再現性のある探究学習の実施を可能にする点で、探究・校務改革の両面に寄与する。

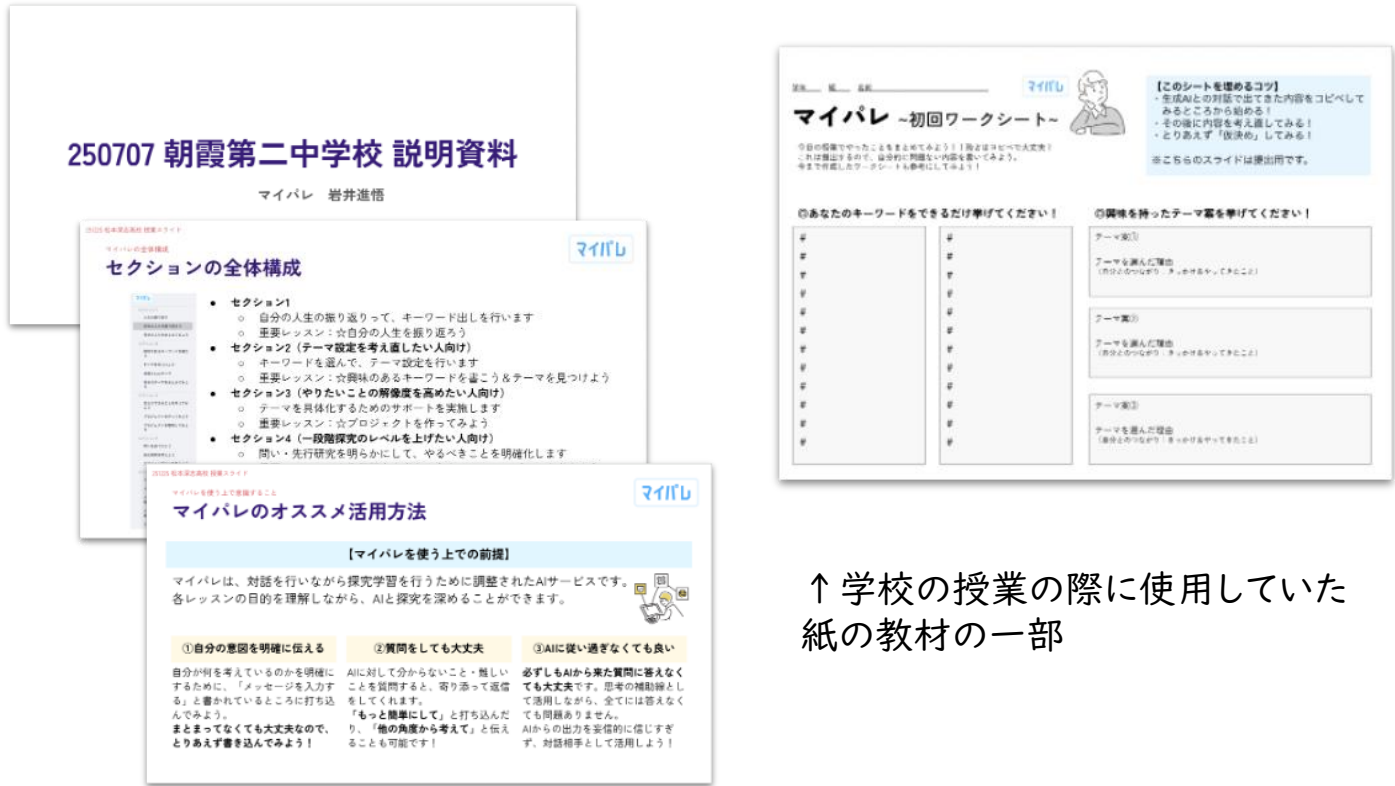
■ 探究・校務改革支援補助金における活用場面

サービスの活用風景・授業の流れ



↑マイパレ for school の使用風景と授業実施の際に説明している風景、メンター派遣で生徒と話をしている様子

↓ 授業実施の際に使ったスライド



↑学校の授業の際に使用していた紙の教材の一部

・松本深志高等学校では、グループで行う地域探究をいかに生徒一人ひとりの「自分ごと」として捉え直せるかを主題に導入を行った。生成AIおよび大学生メンターによるメンタリングを活用し、生徒各自が自身の関心や問題意識を言語化・構造化する支援を実施した。
・朝霞第二中学校では、探究学習の導入段階における実証を実施した。生成AI教材を活用し、生徒が自身の興味や日常経験を振り返りながら問いを立てる支援を行うことで、「探究とは何か」を理解し、自分の考えを言語化するプロセスの定着を図った。これにより、探究活動への心理的ハードルを下げるとともに、教員の個別支援負担を軽減する効果を検証した。

本事業においてサービスを導入した学校設置者数・学校等教育機関数

| | | | |
|--------|---|----------|----|
| 学校設置者数 | 2 | 学校等教育機関数 | 2校 |
|--------|---|----------|----|

| 学校設置者名 | | 学校等教育機関名 | 所在地 | 学校種 | 学年 | 実施教科 |
|--------|----------|-------------|-----|------|------|----------|
| 1 | 長野県教育委員 | 長野県松本深志高等学校 | 長野県 | 高等学校 | 1、2年 | 総合的探究の時間 |
| 2 | 朝霞市教育委員会 | 朝霞市立朝霞第二中学校 | 埼玉県 | 中学校 | 1、2年 | 総合的学習の時間 |

【児童・生徒の探究学習】【教職員の業務効率化・省力化】等サービス活用による成果

定量的効果検証

平均対話数 **51.2**回/1人

授業後使用率 **61.3**%

N=1015

- 複数回の授業の中でマイパレの活用を前提とした授業設計を行った結果、平均対話回数および授業後使用率について、昨年度の実証実験における参考値（平均対話回数49.7回／人、授業後使用率47.2%）と比較して、やや高い傾向が確認された。
- 1クラス40人の生徒に対して、授業内での対話回数が50回程度だった場合、2000往復の会話が生み出されていることになるはず。これらを使用することで、先生方のフィードバックにかかっていた時間を削減することができた。
- そして、授業後の使用率（授業時間外での利用）を測ると、多くの生徒が授業外でも使用してくれていたことが分かった。宿題として出されていたこともあり、授業時間外でもサービスを使用してもらうことができていた。
- 生徒のほとんどが探究テーマを決め切るところまで達成できており、探究学習における走り出しに一定程度以上の効果が出ていた。

※定量的効果の検証方法の概要（※P9参照）

調査対象：実証校における生徒

調査方法：利用ログの分析、ワークシート

指標：授業後使用率、対話回数

■【児童・生徒の探究学習】【教職員の業務効率化・省力化】等サービス活用による成果

定性的効果検証（教員からのコメント）

- 探究テーマを自分で決めてアクションまで落とす個人探究と、その後チームでテーマを決めて進めるグループ探究の両面でサービスを使用しました。個人探究を1サイクル行うことで、個人の興味関心が分かり、そこからチームを組むところにつながることができました。その後も、AIとの対話についてのレクチャーを生徒に実施しながら、探究の支援を実施することができました。（松本深志高校 探究主任）
- 探究テーマの立案、そして調べ学習・アクションプランの立案までAIと話しながら、実現できていました。その他でも、AIの正しい使い方講座などを通してAIリテラシーを高める試みや探究経験を持つ大学生の話聞いて対話できるタイミングなどがあり、生徒の学びを総合的にサポートしていただきました。（松本深志高校 探究部教員）
- テーマ設定など例年だと時間がかかる部分でかなりの時間を削減することができました。教員の面談を減らすことができ、探究を前倒して実施することができました。AIを活用しながら、生徒同士の協働的な学びを促していくために、ロイノートなどの共有サービスを活用する工夫なども行いました。（松本深志高校 探究部教員）
- 生徒が授業で一斉にAIを使う瞬間を初めて見ましたが、かなり集中して使ってくれていたと思います。放課後や長期休みなどでもサービスを使って探究を進めてくれていた生徒もいました。最初はAIに対して懐疑的な側面もありましたが、生徒の学び方を見て、うまい関わり方を見つけていかなければいけないなど感じました。（松本深志高校 探究部教員）
- 教員向けのAIレクチャー講座から始まり、生徒向けにも総合的な学習の時間で、自身の興味についての深堀りを行うことができました。総合の時間の中でAIを活用する事例は殆ど無い中で、どのように学びの機会を提供するのかなどについても考える機会になりました。その他の行事との連携強化できることで、更に生徒のキャリア選択にも繋がるのではないかなと思います。（朝霞第二中学校 教員）

本サービスは、生成AIと人的伴走支援を組み合わせることで、探究学習の初動負荷を下げつつ、生徒の主体的・協働的な学びを促進し、教員の指導・校務負担を軽減する実践的な探究支援モデルであることが、実証校の教員の声から確認できる。

定性的効果検証（生徒からのコメント）

【肯定的な感想】

- 今回のAIは共感してくれるのが多かった。そこが良かったと思う。
- 好きなことを打ち込むことだけでテーマを出てくるのがいいなと思ったから。
- 自分でもよく考えないと出ないことを、AIはあっさりと深掘りしていってくれたので、やりやすかった。
- すごい探求の問いとかを考えることができて今回これを使ったことでできたし、すごいめんどくさいなとか思わないでスラスラできたし、ずっと質問攻めだったのでいろんな考えが見つかった
- Chat GPT以外の生成AIにはじめて触れて、きちんと生成AIと会話ができ、良い時間を過ごせたから。

【否定的な感想】

- 記憶力を良くする。chatGPTなどに存在しているメモリ機能みたいなものを強化することで、もっと話しやすくなるはず。
- 一つのことに深掘りしたあと、そのときにどんな気持ちで、なんでそういう気持ちだったのか、それにはどうゆう背景があったのかなどを聞いてもらえたらもっといいと思います。
- AIの返し方が少し単調であんまり長く話したいと思わなかった
- AIの言ってることが違う時に違うと言うボタンがあったら良いと思う
- 質問が多すぎるのと、質問のバリエーションを増やしてほしい。

※定性的効果の検証方法の概要

調査対象：実証校における生徒

調査方法：アンケート調査（計1,015人）

指標：学びになったこと、改善してほしいポイントを自由に記述してもらった

定性的効果検証

本実証において、生徒の多くがテーマ設定から初期間いの構造化まで到達しており、探究学習の初動段階における達成度は高い水準にあると評価できる。

【参与観察による達成度評価】

参与観察の結果、以下の行動変容が確認された。

- 抽象的テーマが具体的問いへと収束していく過程
- AIとの対話を通じた自己内省の深化
- 教員介入なしで問いの修正を繰り返す姿
- 授業外での自律的な探究継続

※定性的効果の検証方法の概要
 調査対象：実証校における生徒
 調査方法：参与観察（計1,015人）
 指標：探究学習の達成度合い

特に、従来は教員面談が必要であったテーマ精緻化過程が、生徒主導で進行していた点は顕著である。

| フェーズ | 達成状況 |
|--------|------------|
| テーマ決定 | ◎ 多くが到達 |
| 問いの具体化 | ◎ 明確に進展 |
| 情報収集準備 | ○ 準備段階まで到達 |
| 仮説検証 | △ 今後の深化課題 |

本実証における探究学習の達成度は、「初動段階（テーマ決定・問いの構造化）」において高い水準に到達していると判断する。探究学習最大の離脱ポイントである「問いの立ち上げ」を多くの生徒が突破しており、初期段階の成功モデルとして一定の実効性が確認された。

■ 探究・校務改革支援サービスを活用するにあたっての課題とその改善策

本導入実証を通じて、探究・校務改革支援サービスは生徒の主体性向上や教職員負担軽減に一定の効果を示した一方で、導入初期の設計や運用面において、事業者側として複数の課題が明らかとなった。これらの課題を踏まえ、今後は導入設計の標準化、運用支援体制の強化、ツール・メンタリングの役割分担の最適化を進めることで、より持続可能で再現性の高いサービス提供を目指す。

直面した課題

【導入時の課題】

- 学校ごとに探究の位置づけや授業体制が大きく異なり、導入設計の個別調整に工数がかかった
- 教員・生徒双方に対して（主に教員全体への共有）、生成AI活用の目的や役割を十分に共有するまでに時間を要した

【実施していく中での課題】

- 探究の進度や理解度にはばらつきがあり、メンタリングの関与度合いに調整が必要となった
- 先生も忙しく、密なコミュニケーションを取ることが容易ではない故に学校側の運用状況をリアルタイムで把握しきれず、改善対応が後手に回る場面があった

【実施結果として新たに顕在化した課題】

- 継続導入を見据えた場合、より簡易な運用モデルの必要性が明確になった
- 1年間を通して継続利用する際に、全体カリキュラムが学校ごとに違い、それらに対応しやすいUI/UX設計とは何かについて考えなければいけないという課題が出てきた。
- 先生との密なコミュニケーションを容易にすることや、それらがなくても先生方が自律して弊社サービスをどのようにカリキュラムの中に組み込むかを考えられる土台が必要

解決するための改善策

① 学校ごとの年間カリキュラムに対応できるUI/UX設計への改善

- 探究の進度や実施時期に応じて利用単元を選択・組み替えできる「モジュール型UI」へ移行を検討する
- 学期・単元・授業回数に応じて柔軟に配置可能な設計とし、学校ごとの年間計画に自然に組み込めるUXを構築する

② 教員とのコミュニケーション負荷を下げる設計改善

- 教員向けに「どの単元を・いつ・どの目的で使うか」を可視化できる管理画面や活用ナビゲーションを整備する
- 導入時に必ずしも個別説明を行わなくても運用できるよう、活用事例・モデルカリキュラム・FAQをUI上に組み込む

③ 教員が自律的にサービスを組み込める土台づくり

- 教員が自校のカリキュラムに合わせて編集・複製できるテンプレート機能を段階的に実装する

④ 継続導入を前提とした運用モデルの再設計

- 初年度は伴走支援を厚く、次年度以降は教員主体で運用できる「フェーズ移行型モデル」を構築する
- サポート工数を最小化しながらも効果を維持できる、簡易・再現性重視の運用設計へ移行する

| | |
|------|---|
| 社名 | 一般社団法人マイパレ |
| 代表 | 岩井進悟 |
| 設立年月 | 2023年11月 |
| 本社 | 東京都杉並区和泉3-51-23 |
| 資本金等 | — |
| 売上高等 | 626,125円 |
| 従業員数 | 2人 |
| 事業内容 | 教材の開発(ワークシート、カリキュラム)、教育プログラムの提供(学校での出張授業、探究学習のメンター派遣など) |

■お問い合わせ窓口

担当:岩井進悟

電話:070-1478-6708

Mail:mypalette2023@gmail.com